

第 63 期 中間事業報告書

平成 14 年 4 月 ~ 平成 14 年 9 月

Clarion

The background of the cover features a stylized world map in shades of green and blue. Overlaid on the map are several white-outlined rectangular boxes, some of which are connected by lines, suggesting a data flow or network. On the right side, there are glowing, concentric circular patterns in white and light blue, giving a sense of motion or digital activity. The overall aesthetic is clean, modern, and tech-oriented.

クラリオン株式会社

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素から社業につきまして格別なるご支援、ご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社の第63期中間期(平成14年4月1日から平成14年9月30日まで)の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

経営環境が大きく様変わりしている昨今、当社では的確な経営を進めるため、「新創業21計画」を強力に実行しております。その結果、当中間期は、売上高が横ばいを維持する中、損益面で大幅に改善することが出来ました。

当社グループでは、企業価値増大をはかるため連結経営を重視し、連結収益力の向上と連結キャッシュフロー経営を推進しております。あわせて、利益率ならびに資産回転率の面から連結ROA(総資産当期純利益率)を高めていくことが重要と考え、たな卸資産、有利子負債等、総資産の圧縮に取り組んでおります。

また、業務の集約と効率化をはかるため、OEM営業部門を除く本社機能を埼玉事業所(戸田市)に移転し、本社事務所といたしました。さらに、東京近郊に分散する関係会社を移転、再配置し、一層の経費削減とスリム化に努めております。

株主各位のご期待に副うべく、一層の経営改革と経営合理化に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

取締役社長

泉 龍孝



経営環境

当中間期の経営環境は、アジア等一部地域で好調であったものの、米国では世界的な株安を背景に景気回復の足取りは重い状況が続きました。国内におきましても外需主導による緩やかな回復はみられましたが、設備投資の減少をはじめとする内需の低迷、株価の下落、個人消費の伸び悩み、雇用情勢の悪化等により、一層停滞感が強まりました。

当社グループの関連する自動車業界は、日米の新車販売台数が前年同期を上回りましたが、欧州は横ばいで推移しました。海外における現地生産・販売が増加し、国内生産におきましては北米向け輸出を中心に増加しましたが、国内販売は微増にとどまりました。一方、車載用音響・映像機器市場におきましては熾烈な販売競争により、厳しい状況が続きました。

このような経営環境の中で、当社グループは「新創業21計画」を強力に推進し、将来の成長に向けた事業構造改革に努めてまいりました。

業績の概要

当中間期の連結業績につきましては、主力の自動車機器事業は、国内OEM(相手先ブランド生産)市場でのカーナビゲーションの販売伸長と海外OEM市場での販売が増加しましたものの、国内市販市場での低迷により、当中間期の連結売上高は前年中間期比1.1%減の940億40百万円となりました。

連結損益につきましては、「新創業21計画」に基づき生産性向上と経営合理化による経費削減に努めました結果、営業利益は47億3百万円(前年中間期比258.1%増)、経常利益は25億55百万円(前年中間期は5億55百万円の損失)と大幅な増益を達成いたしました。

当中間純利益につきましては、早期退職制度による退職金割増、米国子会社保有の営業権償却、退職給付会計移行時差異等を特別損失として計上し、法人税等を控除した結果、当中間純利益は10億23百万円(前年中間期は65億23百万円の損失)となり、大幅に改善いたしました。

今後の見通し

今後も、経営環境は先行き不透明感が強まっております。また、自動車業界におきましても、コスト競争が一段と厳しさを増し、国際部品調達の拡大など、大幅な原価低減を実現する原価造成力の構築が求められております。そのような中で、当社グループは、企業収益構造基盤を強化するために、「新創業21計画」を実行し、さらにこれらのチューンアップとスピード化をはかり、当社グループ企業の再生を確固たるものにしてまいります。

より快適さを求めて、カーマルチ進化を続けています。

カーラジオ・カーオーディオの世界を切開いてきたクラリオン。クラリオンはいま、新たにデジタルラジオ、高機能ナビゲーション、そして、無限の広がり秘めたITS*（高度道路交通システム）の実現に向けて、車載情報端末の世界を切開いています。

(*: Intelligent Transport Systems)

進化し続けるカーAVとカーナビゲーション

近年、カーAVとカーナビゲーションを一体化した複合型DVDナビゲーションシステムの人気が高まっており、当社におきましても当該分野の商品をより一層充実させてまいります。一方、ITSの具現化、車載情報端末の進化に合わせて、市場拡大が予想される通信機能を有したカーナビゲーションシステムの開発にも経営資源を集中させております。クラリオンでは、国内外の主要自動車メーカーから相手先ブランドによる生産(OEM)としても高い納入シェアを獲得しており、今後とも積極的に展開してまいります。



DSP内蔵CD/MD センターユニット：
DMZ725LR(AM/FM, CD/MD
内蔵、CeNET対応)



DVD カーナビゲーション MAX 420VD

オートビーシー・カディアス

AutoPC CADIAS がいよいよデビュー。

AutoPC CADIASがいよいよ本年12月に発売開始となります。AutoPC CADIASはマイクロソフト社のWindows®CE for Automotiveを採用。「発展性」「拡張性」「カスタマイズ性」をキーワードに、快適なITカーライフを楽しむための様々な独自のアプリケーションソフトを搭載します。最新の地図情報をリアルタイムに入手する通信型の

メディアから車載情報端末へ、

ナビゲーションシステムやWeb閲覧、e-mail、音声認識や音声読み上げ機能、TV、ラジオ、DVD、CD-R/RW、CDのほか、MP3/WMAなどの全てのAV再生機能も搭載します。クラリオンではさらにハードのみならず、情報の中身であるコンテンツ事業も推し進めてまいります。



AutoPC CADIAS

DSPチューナーシステムをPhilips社と共同開発

クラリオンはカーラジオのキーデバイスであるチューナーシステムをPhilips社(本社オランダ)と共同開発を行い、2004年から順次導入をはかってまいります。

このたび、共同開発するチューナーシステムはアナログ信号をデジタル信号に変換するDSP(Digital Signal Processor)を採用し、受信性能を飛躍的に向上させ、さらに顧客及び仕向先別に開発していたチューナーシステムをソフトウェア処理により共通化いたします。

トピック：新たな可能性を秘めてきたETC (DSRC)。

高速道路の料金所で停車せずに高速道路料金を決済できるETC(自動料金収受システム)が、DSRC(狭域帯通信)としてさらに飛躍しようとしております。また、駐車場の入退出、駐車料金決済をETCにより自動化する試みがされているなど、将来的には、ファーストフード、ガソリンスタンド、レストランなど、幅広い分野に用途が拡大することが予想されます。

車載情報端末市場でのリーディングカンパニーを目指すクラリオンは、今後、市場成長が見込まれるETCの充実と各種情報を提供する新サービスを開発中です。

中間連結貸借対照表

平成14年9月30日現在

(単位:百万円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	91,473
現金及び預金	19,804
受取手形及び売掛金	34,615
たな卸資産	33,349
繰延税金資産	1,804
その他	3,617
貸倒引当金	1,717
固定資産	52,141
有形固定資産	(30,854)
建物及び構築物	10,067
機械装置及び運搬具	4,327
工具器具備品	3,340
土地	13,088
建設仮勘定	30
無形固定資産	(9,130)
投資その他の資産	(12,156)
投資有価証券	4,729
関係会社株式	453
繰延税金資産	1,033
その他	6,095
貸倒引当金	155
繰延資産	27
資産の部合計	143,642

(単位：百万円)

負債・少数株主持分及び資本の部	
科目	金額
流動負債	113,094
支払手形及び買掛金	25,554
一年以内償還社債	3,000
短期借入金	69,050
未払法人税等	946
未払費用	5,822
賞与引当金	1,359
その他	7,360
固定負債	25,188
転換社債	1,600
長期借入金	11,254
再評価に係る繰延税金負債	2,005
繰延税金負債	70
退職給付引当金	9,286
その他	970
負債の部合計	138,282
少数株主持分	953
資本金	21,136
資本剰余金	28,622
利益剰余金	40,113
土地再評価差額金	2,763
その他有価証券評価差額金	894
為替換算調整勘定	7,104
自己株式	4
資本の部合計	4,406
負債・少数株主持分及び資本の部合計	143,642

(注) 1. 連結範囲及び持分法の適用に関する事項
 連結子会社数 42社 持分法適用関連会社数 2社

2. 連結範囲及び持分法の適用の異動状況
 連結(新規)なし(除外)なし
 持分法(新規)なし(除外)なし

中間連結損益計算書

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 14 年 9 月 30 日

(単位:百万円)

科 目	金 額
営 業 収 益	
売 上 高	94,040
営 業 費 用	
売 上 原 価	74,078
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	15,258
営 業 利 益	4,703
営 業 外 収 益	(663)
受 取 利 息 及 び 受 取 配 当 金	145
そ の 他	518
営 業 外 費 用	(2,811)
支 払 利 息	1,325
そ の 他	1,486
経 常 利 益	2,555
特 別 利 益	104
特 別 損 失	1,251
税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益	1,409
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,205
法 人 税 等 調 整 額	869
少 数 株 主 利 益	49
中 間 純 利 益	1,023

(補足)

・当期の「販売費及び一般管理費」に含まれる連結調整勘定当期償却額は 116 百万円です。

中間貸借対照表 (平成14年9月30日現在) (単位: 百万円)

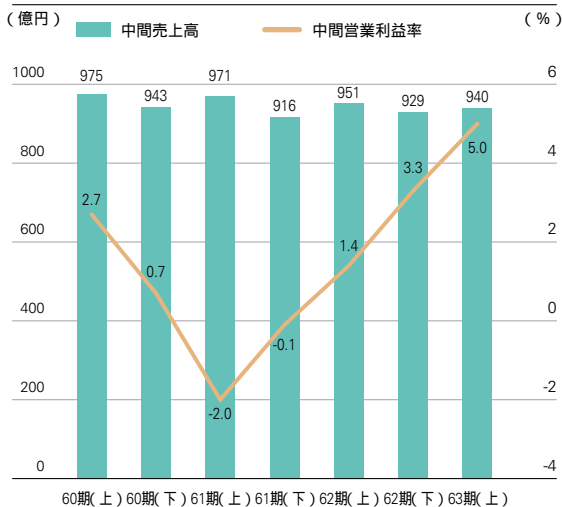
資産の部		科目	金額	負債及び資本の部		科目	金額
資産の部	流動資産		45,115	負債の部	流動負債		73,046
	現金及び預金		6,991		固定負債		19,987
	受取手形及び売掛金		16,948		負債の部合計		93,034
	たな卸資産		11,900	資本の部	資本金		21,136
	未収入金		6,911		資本剰余金		28,621
	繰延税金資産		898		利益剰余金		32,982
	その他		3,799		土地再評価差額金		2,689
	貸倒引当金		2,333		その他有価証券評価差額金		882
	固定資産		66,469		自己株式		4
	有形固定資産		16,639		資本の部合計		18,577
	無形固定資産		6,837		負債及び資本の部合計		111,611
	投資等		42,992				
	貸倒引当金		118				
	繰延資産		26				
資産の部合計		111,611					

中間損益計算書 (自平成14年4月1日 至平成14年9月30日) (単位: 百万円)

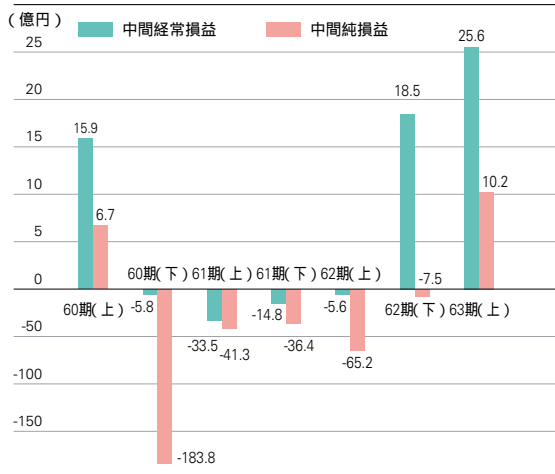
科目	金額
売上高	69,899
売上原価	61,722
販売費及び一般管理費	5,974
営業利益	2,203
営業外収益	592
営業外費用	1,560
経常利益	1,236
特別利益	414
特別損失	1,209
税引前中間純利益	441
法人税、住民税及び事業税	121
法人税等調整額	-
中間純利益	320
前期繰越利益	35,202
中間未処分利益	34,882

連結・単独財務諸表の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結中間売上高及び中間営業利益率の推移



連結中間経常損益及び中間純損益の推移



金額及び比率は、表示単位未満を四捨五入して表示しております。

平成 14 年 10 月 31 日現在

商	号	クラリオン株式会社		
資	本	金	21,136,653,177 円	
発行済株式総数			196,338,542 株	
設	立		昭和 15 年 12 月 18 日	
従	業	員	数	1,476 名

本	社	〒112-8608	東京都文京区白山五丁目 35 番 2 号				
			電話 (03) 3815-1121 (代表)				
本	社	事務	所	〒335-8511	埼玉県戸田市上戸田 50 番地		
					電話 (048) 443-1111 (代表)		
東	北	事	業	所	〒963-0725	福島県郡山市田村町金屋字下夕川原 50 番地	
						電話 (024) 944-1111 (代表)	
大	阪	営	業	所	〒530-0011	大阪府大阪市北区大深町 2 番 179 号	
						電話 (06) 6373-1654 (代表)	
広	島	営	業	所	〒733-0035	広島県広島市西区南観音 7 丁目 6 番 28 号	
						電話 (082) 532-6064	
浜	松	営	業	所	〒430-0933	静岡県浜松市鍛冶町 140 番地 浜松 C ビル 503	
						電話 (053) 456-0660	
名	古	屋	営	業	所	〒465-0025	愛知県名古屋市中東区上社 2 丁目 210 番地
						北村第二ビル 3F	
						電話 (052) 760-5500	

役員

平成 14 年 10 月 31 日現在

取	締	役	社	長	泉	龍	彦	取	締	役	笠	井	成	志			
取	締	役	副	社	長	大	倉	喜	一	郎	取	締	役	大	坂	敏	晴
取	締	役			中	川	泰	彦	取	締	役	北	村	強			
取	締	役			新	村	英	徳	取	締	役	田	中	雅	俊		
取	締	役			若	森	豊	常	勤	監	査	役	松	田	洋	一	
取	締	役			皆	川	昭	一	常	勤	監	査	役	白	井	道	夫
取	締	役			関	次	郎	監	査	役	笹	井	保	大			
取	締	役			吉	峰	徹	郎	監	査	役	唐	澤	俊	二	郎	

- (注) 1. 監査役のうち、笹井保大、唐澤俊二郎両氏は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。
- (注) 2. 平成14年6月27日開催の第62回定時株主総会において、大倉喜一郎氏が取締役役に新たに就任いたしました。



より快適に、多彩なAVメディアに対応

カーAVでいま注目のVRX925VDは、1DIN、格納式7型ディスプレイを装備、DVDビデオ、ビデオCD、CD、CD-R/RWなど、多彩なメディアに対応。オプションで、映画館のような迫力と臨場感あふれる立体音場を再現できる5.1チャンネル・サラウンドシステムにもグレードアップ可能です。

株式についてのご案内

決 算 期	3月31日
基 準 日	(1) 定時株主総会において権利を行使すべき株主は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主といたします。 (2) その他必要ある場合は、予め公告して定める日。
公告掲載新聞名	日本経済新聞
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都江東区東砂七丁目10番11号(〒137-8081) UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03 5683-5111
同 取 次 所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 本店・全国各支店

Clarion

ホームページアドレス
<http://www.clarion.co.jp>